

後輩たちへのエール！ その64

2022年5月9日

今日の苦しみは明日の自信

◇今回は、古田温香さん(名古屋大学文学部)からのメッセージです！

こんにちは。2019年3月に卒業した古田温香です。名古屋大学文学部文化人類学専攻4年生で、6月には関高で教育実習をさせていただきます。よろしくお願いします。今からと一っても緊張しています(笑)。

私からは、困難に直面しても諦めずに取り組むことの、私が考える本当の意味での価値について、高校生活と大学生活のエピソードを用いてお伝えします。

<高校生活～大学受験～>

名古屋大学文学部は第一志望でした。しかしセンター試験の判定はC。上位大学志望の受験生が安全志向で下りてくる上、何より、名大文学部二次試験には私の“天敵”である数学があることから、出願校を変えるのが安全だと考えられました。

二次試験に数学がない学部や他の大学も考えましたが、私はどうしても納得できませんでした。頭が堅いのかもかもしれませんが、可能性がゼロではないのに諦めるということができませんでした。担任の先生の「チャレンジしてみてもいいと思う」という言葉に背中を押され、そのまま名大文学部に出願しました。

そこからはとにかく数学漬けの毎日でした。友人の多くは二次試験が2～3科目で数学もやらなくて良い状況だったので、そんな中で勉強するのはとても辛かったです。数学さえなければ、という考えが常に頭にありました。私大もことごとく落ち、じりじりと追い込まれる苦しい日々でした。

まさに背水の陣で迎えた二次試験。結果は合格でした。絶対落ちたと思っていたので、11時に合格発表なのに現実逃避でなかなか見られず、「もう結果は変わらんのやではよう見なさい！！」と親に叱られて15時くらいにやっと見ました。

「苦しくても諦めないで」なんて、合格したから言えるんでしょ、と思うかもしれませんが、確かに合格したからこそその喜びもあります。ですが、数学を諦めて他の学部や大学を受けそこで合格したとしても、その喜びとは絶対に異なるはずです。今回は運良く合格しましたが、例え不合格だったとしても、「最後まで逃げなかった」という事実は変わりません。私がお伝えしたいのは、成功する可能性に懸けて諦めずに取り組んでね、ではなく、諦めずに取り組んだという事実が今後の人生で必ず自分を支えてくれるから、諦めないでね、です。実際、あのときあんなに苦しかったのに諦めなかった、という事実は今の

私の強い自信となっています。

<大学生活～サークルでの挫折～>

大学では、100名規模の混声合唱団に入りました。3年間で、全国大会金賞2位や金賞グランプリを受賞しました。素敵な先輩、同期、後輩にもたくさん出会えましたし、オールして朝帰りとか、お泊まりとか、コロナ前は打ち上げとか、合宿とか・・・大学生っぽいこともたくさんできました。

そんな団体で、3年生のときには幹部を引き受けました。ただこれが私にとって、人生最大の試練であり初めての挫折となりました。詳細は割愛しますが、自分の無力さや弱さを初めて知りたくさん苦しみました。誰かに話を聞いてもらったり、時にはサークルから離れて休んだりしながら、一度引き受けた仕事はやり切ろうという責任感で1年間なんとか乗り越えました。いろいろありましたが、あんなに苦しかったことを乗り越えた、負けなかった、という事実がやはり私を支えてくれています。

皆さんも、日々何らかの悩みを抱えながら生きていると思います。困難にぶち当たることもあると思います。時には切り替えが必要なきときもありますが、粘り強く取り組み続けることもまた、例え結果が伴わなくても後々の自分にとってとても意味のあることだということを知っていただけたら嬉しいです。

身体に気をつけながら、今日も、明日も、生きていきましょう！



↑最後の定期演奏会で、感極まって泣いています(笑)



↑新入生勧誘活動時の私です。髪の毛ピンクでした。